

AI Navigator v1.3.0

リリースノート

要旨

本ドキュメントでは、AI Navigator v1.3.0 の提供内容を記載しております。ご使用前に、必ずお読みください。

インストール方法、使用方法につきましては、[AI Navigator Quick Start Guide](#) をご参照ください。

目次

1. AI Navigator について.....	2
1.1 製品の概要.....	2
1.2 対象プラグイン.....	2
1.3 動作環境.....	2
1.4 対応 MCU・MPU.....	3
1.5 AI Navigator Quick Start Guide.....	3
2. 変更内容.....	4
2.1 AI Navigator Plugin.....	4
2.2 AI TLT Plugin.....	5
2.3 AI Model Conversion Tool Plugin.....	6
3. 注意事項/制限事項について.....	7
3.1 使用上の注意点.....	7
3.1.1 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT のインストール時間について.....	7
3.1.2 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT インストール中の中断について.....	7
3.1.3 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT を個別インストールした時の動作について.....	7
3.1.4 [AI TLT Plugin] ダイアログによる転移学習ツールの終了について.....	7
3.1.5 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT が対応する AI アプリケーションについて.....	7
3.1.6 [AI TLT Plugin] ターミナルからの e ² studio 起動している場合について.....	7
3.1.7 [AI Model Conversion Tool Plugin] 環境設定について.....	8
3.1.8 [AI Model Conversion Tool Plugin] GUI 画面のクローズについて.....	8
3.1.9 [AI Model Conversion Tool Plugin] サンプルコード生成について.....	8
3.2 機能制限.....	9
3.2.1 [AI Model Conversion Tool Plugin] 複数入力モデルにおけるサンプルコード生成について.....	9
3.2.2 [AI Model Conversion Tool Plugin] 前処理オブジェクトの出力ディレクトリについて.....	10
改訂記録.....	11

1. AI Navigator について

1.1 製品の概要

AI Navigator は、統合開発環境 e² studio 上で動作するプラグイン製品です。

AI を使用する組み込みシステム開発において、AI Navigator を使用することにより AI を開発する上で必要なさまざまな機能を統合して操作することができ、開発期間の短縮が実現できます。

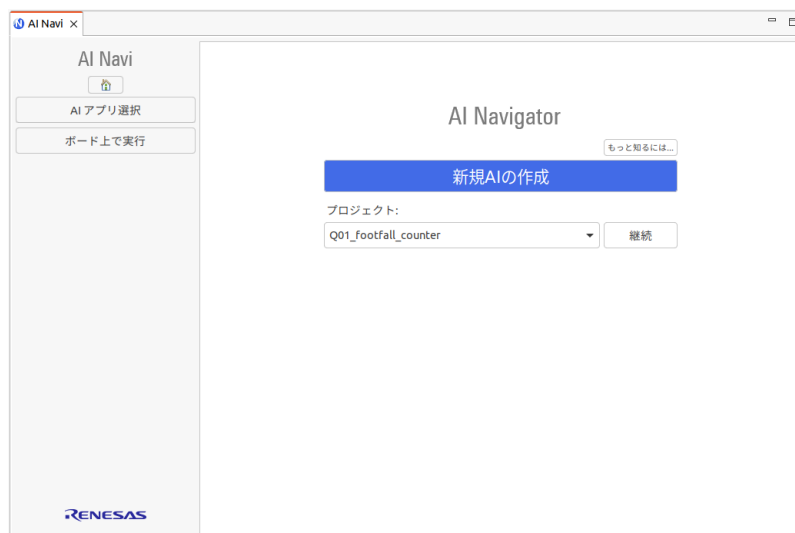


図 1 AI Navigator Top 画面

- AI アプリケーション Zoo からの AI アプリケーション選択および対応する e² studio プロジェクトのダウンロードが可能。簡単に開発をスタートすることができます。
- 転移学習機能をサポート。対応する AI アプリケーションの AI モデルを自分のデータセットでカスタマイズが可能。
- AI モデルを実行形式への変換機能をサポート。RZ/V 用ツールでは TVM を用いて DRP-AI 用実行コードへ変換が可能。

1.2 対象プラグイン

- Renesas AI Navigator plugin v1.3.0
- AI Transfer Learning Tool plugin v1.3.0 ※転移学習ツール用プラグイン
- AI Model Conversion Tool plugin v1.3.0 ※AI モデル変換ツール用プラグイン

【注】 以降の説明では、上記の各プラグイン名を以下のように記載しています。

- AI Navigator Plugin
- AI TLT Plugin
- AI Model Conversion Tool Plugin

1.3 動作環境

- Ubuntu 20.04 LTS
- Renesas e² studio 2025-01 Linux
※以下よりダウンロードしてください。
<https://www.renesas.com/document/uid/e-studio-2025-01-installer-linux>

1.4 対応 MCU・MPU

RZ ファミリ

RZ/V シリーズ RZ/V2H グループ、RZ/V2L グループ、RZ/V2N グループ

1.5 AI Navigator Quick Start Guide

AI Navigator のインストール並びに使用方法につきましては、AI Navigator Quick Start Guide をご参照ください。

(URL) https://renesas-rz.github.io/rzv_ai_sdk/latest/ainavi_quick_start_guide

2. 変更内容

本章では、各プラグインについて、前バージョンからの変更内容を記載します。

2.1 AI Navigator Plugin

表 2.1 AI Navigator Plugin 変更内容

項目	変更内容	
	前バージョン(v1.2.0)	本バージョン(v1.3.0)
プラグインバージョン	AI Navigator Plugin v1.2.0	AI Navigator Plugin v1.3.0
注意事項解除	<p>(3.1.11 [AI Navigator Plugin]ボード上での実行画面での注意事項)</p> <p>AI アプリ選択画面にて RZ/V AI SDK の zip ダウンロード先ディレクトリパスを指定しない状態のまま、ボード上での実行画面にて[起動ディスクを作成...]ボタンをクリックすると、ダウンロード先ディレクトリパスを指定するよう指示されます。ディレクトリパスを指定した後、再度[起動ディスクを作成...]ボタンをクリックしてください。</p>	<p>左記の注意事項を解除。</p> <p>ダウンロード先ディレクトリパス設定後、再度の[起動ディスクを作成...]ボタンをクリックは不要。</p>
AI Navigator Help ページ	-	V1.3.0 の内容を反映。
フィルタ機能	AI アプリ選択画面内のフィルタ機能は、入力単語をコンマ区切りで入力した際に、その単語が全て含まれるアプリを表示していた。	フィルタに入力された単語の内、何れか一つでも含まれていれば表示するように変更。

2.2 AI TLT Plugin

表 2.2 AI TLT Plugin 変更内容

項目	変更内容	
	前バージョン(v1.2.0)	本バージョン(v1.3.0)
プラグインバージョン	AI Transfer Learning Tool Plugin v1.2.0	AI Transfer Learning Tool Plugin v1.3.0
RZ/V AI TLT バージョンアップ機能の改善	[設定開始...] を押下して RZ/V AI TLT をインストールする際に、新しい RZ/V AI TLT バージョンをインストールする場合に、手動で古いバージョンの Docker コンテナを事前に削除する必要がある。	[設定開始...] を押下して新しく RZ/V AI TLT をインストールする際に、古いバージョンの RZ/V AI TLT を検知し、新しい RZ/V AI TLT をインストールするか否かを選択できる。OK を選択した場合、古いバージョンの Docker コンテナを自動で削除し、新しい RZ/V AI TLT がインストールされる。
注意事項解除	(3.1.3 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT 再インストール時の動作について) AI Navigator から RZ/V AI TLT をインストールした後、[設定開始...] ボタンを押すと再インストール処理が開始しますが、Docker コンテナのインストールによるエラーが発生し、再インストールが中断されても、RZ/V AI TLT の動作に影響はありません。	左記の注意事項を解除。 [設定開始...] を押下して新しく RZ/V AI TLT をインストールする際に、既にインストールされている Docker コンテナを削除するため、Docker コンテナのインストールによるエラーが発生しない。
注意事項一部解除	(3.1.4 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT を個別インストールした時の動作について) AI Navigator の [設定開始...] ボタンによる RZ/V AI TLT インストールまたは [転移学習...] ボタンによる起動をする際、すでに個別に RZ/V AI TLT 本体をインストールしている場合は、インストール並びに起動が正常に行われない可能性があります。既に RZ/V AI TLT を個別にインストールしている場合は、既存の Docker コンテナを削除してください。	(3.1.3 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT を個別インストールした時の動作について) RZ/V AI TLT を個別にインストール済みの場合、手動での Docker コンテナの削除は不要。 [設定開始...] 押下時に既存の個別インストール済み RZ/V AI TLT を検出し、AI Navigator と連携可能な RZ/V AI TLT を新たにインストールするか選択できる。 [OK] を選択すると、既存の RZ/V AI TLT コンテナを自動削除し、新しく RZ/V AI TLT をインストールする。

2.3 AI Model Conversion Tool Plugin

表 2.3 AI Model Conversion Tool Plugin 変更内容

項目	変更内容	
	前バージョン(v1.2.0)	本バージョン(v1.3.0)
プラグインバージョン	AI Model Conversion Tool plugin v1.2.0	AI Model Conversion Tool plugin v1.3.0
RZ/V AI SDK 新バージョンサポート	-	以下の RZ/V AI SDK をサポート。 - RZ/V2N AI SDK v5.00 - RZ/V2L AI SDK v5.00
モデル変換中の強制停止	モデル変換の強制停止は不可。	モデル変換の強制停止が可能。
AI Model Conversion Tool プラグイン Help page	-	v1.3.0 の内容を反映。

3. 注意事項/制限事項について

本章では、各プラグインに関する注意事項並びに制限事項について記します。

3.1 使用上の注意点

本バージョンで新たに追加・変更となった注意点は以下の項目です。

- 3.1.3 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT を個別インストールした時の動作について
- 3.1.9 [AI Model Conversion Tool Plugin] サンプルコード生成について

3.1.1 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT のインストール時間について

RZ/V AI Transfer Learning Tool (以降、RZ/V AI TLT) のインストールは、ネットワーク状況によっては時間がかかる場合があります。

3.1.2 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT インストール中の中断について

AI Navigator の[設定開始...]ボタンによる RZ/V AI TLT インストール中に、"Cancel" ボタンなどを押下して中断すると、中断した時点までのインストール結果がそのまま残ります。再度[設定開始...]ボタンを押下し、最後までインストール処理を進めて、インストールを完了してください。

3.1.3 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT を個別インストールした時の動作について

使用している e² studio とは個別に RZ/V AI TLT をインストールしている場合は、AI Navigator の [転移学習...] ボタンを押下した際に、RZ/V AI TLT が正常に起動しない可能性があります。使用している e² studio 上にて AI Navigator 上の [設定開始...] ボタンを押下して、使用中の e² studio と連携可能な RZ/V AI TLT を再インストールしてください。

3.1.4 [AI TLT Plugin] ダイアログによる転移学習ツールの終了について

[転移学習...]ボタンによる RZ/V AI TLT 起動中に、モーダルダイアログの "Cancel" ボタンを押下すると、RZ/V AI TLT も合わせて終了します。Cancel ボタン押下により RZ/V AI TLT を終了した場合、RZ/V AI TLT の正常な動作は保証されません。また、RZ/V AI TLT による転移学習結果として得られる ONNX モデルを AI Model Conversion Tool Plugin に自動で入力する機能が動作しない場合があります。

3.1.5 [AI TLT Plugin] RZ/V AI TLT が対応する AI アプリケーションについて

RZ/V AI TLT がサポートする AI アプリケーションについては、下記ページを参照してください。

(URL) https://renesas-rz.github.io/rzv_ai_sdk/5.10/howto_retrain.html

RZ/V AI TLT がサポートしないアプリケーションについては、AI Navigator の[設定開始...] ボタン、もしくは [転移学習...] ボタンを押下した場合、"Failed to start transfer learning. This project is unsupported." が表示されます。

3.1.6 [AI TLT Plugin] ターミナルからの e² studio 起動している場合について

e² studio をターミナルから起動している場合、AI Navigator の[転移学習...] ボタンを押下後、ダイアログに沿って RZ/V AI TLT を起動する際に、ターミナルに root 権限パスワードの入力が必要になる場合があります。その場合、ターミナルに root 権限パスワードを入力することで、RZ/V AI TLT が起動します。

3.1.7 [AI Model Conversion Tool Plugin] 環境設定について

RZ/V AI SDK zip ダウンロード先ディレクトリパスを設定していない状態で、[設定開始...]ボタンをクリックすると、RZ/V AI SDK zip ダウンロード先ディレクトリパスを設定する警告ウィンドウが表示されます。ディレクトリパス設定後、再度[設定開始....]ボタンをクリックしてください。

また、AI Model Conversion Tool Plugin の環境設定は、ネットワーク状況によっては時間がかかる場合があります。

3.1.8 [AI Model Conversion Tool Plugin] GUI 画面のクローズについて

AI Model Conversion Tool は使用するとき以外はクローズした状態にしてください。

AI Model Conversion Tool を開いた状態では、RZ/V AI SDK の zip ダウンロード先ディレクトリパス、RZ/V AI TLT での転移学習後モデルのファイルパスが AI Model Conversion Tool Plugin に正しく反映されません。

3.1.9 [AI Model Conversion Tool Plugin] サンプルコード生成について

RZ/V 向けのサンプルコード生成は、入力形状が画像のモデルのみに対応しています。そのため、入力形状が画像でないモデルには対応していません。

例： Multi-layer perceptron

※入力形状が画像でない（1次元など）モデルのため。

3.2 機能制限

本バージョンで新たに追加・変更となった機能制限は以下の項目です。

- 3.2.1 [AI Model Conversion Tool Plugin] 複数入力モデルにおけるサンプルコード生成について
- 3.2.2 [AI Model Conversion Tool Plugin] 前処理オブジェクトの出力ディレクトリについて

3.2.1 [AI Model Conversion Tool Plugin] 複数入力モデルにおけるサンプルコード生成について

以下の条件のときに、複数入力モデルのサンプルコード生成に失敗します。

○画面 1 の出力ディレクトリと画面 2 の出力ディレクトリが異なる場合

例：

- 画面 1 の出力ディレクトリ：
test1
- 画面 2 の出力ディレクトリ：
入力 1: test2/Preprocess_input1
入力 2: test2/Preprocess_input2

回避策：

画面 2 前処理設定では画面 1 と同じディレクトリ内のディレクトリを指定してください。

例：

- 画面 1 の出力ディレクトリ：
test1
- 画面 2 の出力ディレクトリ：
入力 1: test1/Preprocess_input1
入力 2: test1/Preprocess_input2

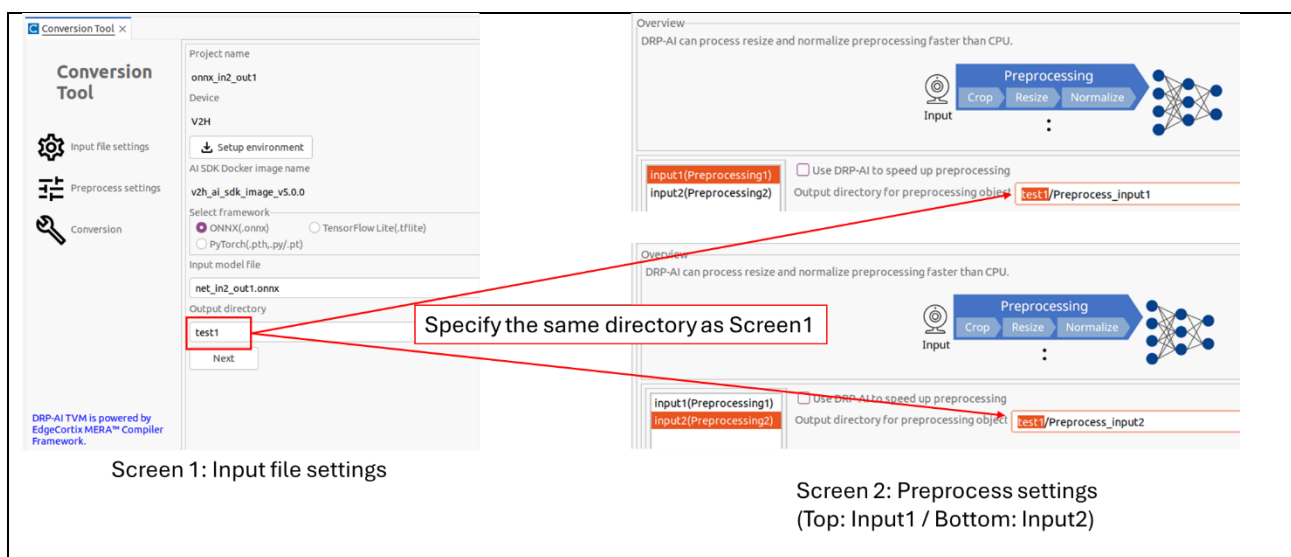


図 3.1 制限事項 3.2.1 回避策

3.2.2 [AI Model Conversion Tool Plugin] 前処理オブジェクトの出力ディレクトリについて

画面 2 の前処理設定で存在しないフォルダを指定すると、所望の場所に前処理オブジェクトが出力されません。

例：

1. 画面 2 前処理設定画面で出力ディレクトリを test1/preprocess と指定する。
2. 画面 3 に遷移する。
3. test1/preprocess/フォルダではなく、test1/フォルダ以下に前処理オブジェクトが出力される。

回避策：

存在するディレクトリを画面 2 前処理設定では設定してください。

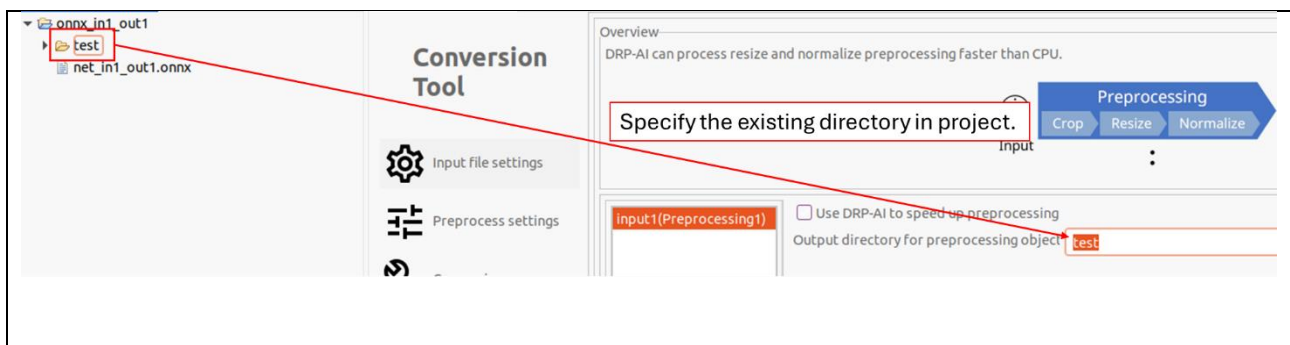


図 3.2 制限事項 3.2.2 回避策

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.20	2024.10.11	-	V1.20 向け新規作成
1.30	2025.5.9	-	V1.30 向け新規作成

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れしないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後、切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6. 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、 $V_{IL}(\text{Max.})$ から $V_{IH}(\text{Min.})$ までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 $V_{IL}(\text{Max.})$ から $V_{IH}(\text{Min.})$ までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違えば、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含まれます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
 3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
 4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
 5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、変更、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改造、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通管制（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等
当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。
 7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア/ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限られません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因したまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア/ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
 8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
 11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものとなります。
 13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。
- 注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。
- 注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレストシア）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。